

大阪成蹊大学 令和三年度入学式祝辞

桜が昨年よりこつねつ甲冑咲き始めた今年ですが、新型コロナウイルス感染症の鎮静化はまだまだです。残念ながら保護者の皆さんの1回戻りもかなわない中での入学式となりました。

大阪成蹊大学の令和三年度新入生、一年次生七百七十一名、三年次編入生七名、大阪成蹊大学大学院教育学研究科三名の総勢七百八十一名のみなさん、入学おめでとうございます。明るく希望と期待にあふれた顔でここをなに戻されたかと大変うれしく思っています。

本年度は芸術学部造形芸術学科へ学部定員増と改組があり、二つのコースの再編と新たな分野としてバーチャルメディア・ボイスクリエイターコースが誕生しました。大阪北部に唯一の芸術学部として、新しい時代のトライアルをめざすメディアを学ぶ先端的な学部として多く知られています。多くの入学生を迎えることになりました。わざわざ経営学科・国際観光ビジネス学科・スポーツビジネス学科の三学科を擁し社会とつながる多様な学びを繰る経営学科、幼稚園・保育園から小学校・中学校・高等学校までの教育を支え、子供たちの学びに貢献する教育学科もあくまで存在感を高め、多くの新入生を迎えることになりました。

畠田から始まるオフホントーションを経て再来週には大学での学びが始まります。そして、高等学校とは異なる本学の学びの特徴についてお詫びしたいと思いまます。

一番はじめに知つておられた大學の学びの特徴はアクト・ディバーフィングです。大学ではすべての授業において、学生一人ひとりが能動的に学習活動に参加することができるわけではありません。講義の最後にこもなり意見を求めるれたり、ある課題について議論が行われたりします。アクト・ディバーフィングを求めるれたりするわけではありません。活動を通して脳を活性化させ、最後にはより効率的な考え方による道筋を学んでいくことが大切なのです。失敗を恐れず活動的になると知

識が定着するところがわかれていなかつた。

まだ本学では、四年間で各学部の専門分野について学修を終なむ。それに加えて、変化の激しい現代社会の中にあって、働き続け学び続ける力、人間力の養成に努めています。やつした人間力教育の趣として本学では大学入学一年生の初年次教育と一年生以上で履修するキャリア教育を進めています。初年次教育は「自己を知り、社会を知る」という田舎とした伸び、読み・書き・語り・じと訓練してきました。本学特有の「ペラシカ」は「持続可能な開発目標 SDGs」の物語です。「SDGs」は国際連合で世界の先進国から発展途上国まで一九〇カ国以上の国々が同意して決定されたもので、環境問題や国家間の格差、貧困問題などを克服し、地球全体の国々が平和を享受しながら持続して発展するための目標で、大変重要な意義を持つた決議となつています。また、一年次以降のキャリア教育では「社会を研究し、自己を分析する」活動を行ないます。学外・地域連携の課題解決 PBL やインターンシップ、学校体験活動など社会ひつながり実践的な学びを進めます。

これらの初年次・キャリア教育は、一つの重要な学びの要素があります。一つは集団的な学習で、様々な課題についてグループで議論し新たなアイディアの提案活動を通して、グループの構成員同士が互いに高めあい、成長する」とです。他者の意見を尊重し受け入れながら学ぶ「ひとり一人ではできない成長を体験する」とになります。一つ目は社会との接点、本学ではソーシャルタッチポイントと呼んでいますが、社会との接点を通して学ぶ」とです。企業や行政・教育機関の現場で活躍し、働く人々とらあい、現場での課題を出したりしたが、批評を受けていたり、社会で働いていたりの実際を体験していくのが目標です。

人間力についても一つ触れます。社会で働くうえで現在の若者に必要とされたところ力として、困難に会つてやがて力、耐え抜く力が必要とされています。これは、現在の前にある誘惑や欲望のために時を過ぎるのではなく、未来の自分の成長や社会の発展のために、自制心（セントロール）を働かせねば

を意味します。

最近田を通した本に「なぜ」「なぜ」で繰り返しだったか」と題するアメリカの実験心理学者の本がありました。その中では、私たちの持つところの「感謝」「恥」「やつ」「誇り」というつの感情をもつて人と接していふんだ、人間は感情強く、誘惑にも負けないようになります、同時に自制心をやつ抜く力も強化されると述べられています。

人に對して「感謝する」とは世人との關係を強めていくのが、やつしたじだ力でなく、心理學の實驗によれば、感謝の念を抱くじとど、人はやつ未来志向となり、将来への利益を體めたまに現在は辛抱するところの自制心が育つじが思ひかになつたやつです。じじで感謝の氣持ちが人との關係で受動的なものであるのに對して、「恥」「やつ」の感情はより能動的なもので、他人のために自分を犠牲にすることをわなに行動となつ、自己効力感、自分は力を發揮でねるとこひ意を強めてくれます。最後の感情「誇り」ですが、誇りをもつじとで仕事に対する意欲や忍耐力を高められるので、やつに難しこ仕事にも熱心に取り組むようになります。

この感謝、恥、やつ、誇りといった感情をもつて生きていじせ、一人ひとりの人格・品性を高めていくもので、ひつては人間力の基本となります。やつを述べましたので、あとめをしつねきます。大学の教育は、クト・ア・ブリーン・シングにあります。初年次・キャリア教育を重視してこじ、集団で学びじと、社会との接点をもつてから社会との特徴があります。

また「感謝」「恥」「やつ」「誇り」の感情をもつて、自制力、忍耐力のあらへに成長しようじよ上じます。

豊かうの大学生活、友人を作り、学習し論議、やつやかな活動に挑戦しながら成長するじとを期待します。

一〇一一年四月一日

大阪成蹊大学 学長

武藏野 實